

【大昔（おおむかし）の人（ひと）は、この石（いし）をどのように使（つか）ったの？】



今回（こんかい）も、理科室前（りかしつまえ）の棚（たな）にあるお宝（たから）についての問題（もんだい）です。

「黒曜石（こくようせき）八ヶ岳（やつがたけ）」と書（か）かれた箱（はこ）に石（いし）が10個（こ）入（はい）っています。

この石（いし）は、今から1万年（まんねん）位（くらい）前（まえ）の縄文時代（じょうもんじだい）には、どのように使（つか）われていたでしょうか？

ア 火（ひ）をつけるための石（いし）

イ 鏃（やじり）と言（い）って、矢（や）の先（さき）につける石器（せっき）

ウ 絵（え）を書（か）くための道具（どうぐ）

前回（ぜんかい）の答（こた）えは、アの花（はな）の形（かたち）です。



左（ひだり）の写真（しゃしん）は、ヤグルマソウという花（はな）です。

前回（ぜんかい）紹介（しょうかい）したヤグルマギクもヤグルマソウと言（い）われていたようですが、この花と紛（まぎ）らわしいことから、ヤグルマギクと言われるようになったそうです。ヤグルマギクは、花の形（かたち）が矢車（やぐるま）の形ですが、ヤグルマソウは葉（は）の形が矢車になっています。